

らくらく号でどこまでも

日立市立成沢小学校 四年 大沼 楓

「最近、こんな事故が多いなあ」

とお母さんが言った。

「こんな事故、と言うのは、お年寄りの運転
カスピードを出しすぎて止まれなくなったり、
逆走したりして起こす事故のことだ。」

ぼくのじいちゃんとはあちからは「離れて暮
らしている。七十歳を過ぎてからは、車を運
転しなくなったそうだ。お父さんとお母さん

が仕事で忙しい日は、ぼくがせみしい思いを
しないように遊びに来てくれる。

「柵は普通に歩けていいねえい。
と、高台にあるぼくの家は坂がたくさんある
から、歩くのがつらそうだ。」

「おじいちゃんぐらゐの年になると、ぼくも
普通に歩けないのかな。もしたら、この坂も
今みたいにすいすい上がれないし、車の運転
もできなくなるのかな」と思った。たら急に車を

とるのか心配はなってきた。

だから、年をとっても心配がないようか乗
り物を作ればいいと思った。電車もバスも家
の前まで来てくれないから乗ちんじかない
し、行きたいときに行きたり場所に自由に行
ける乗り物があれば助がると思う。

たとえば、屋根がついたバイクが運転して
となめには、おばあちゃんとかぼくとか、重
い荷物を乗せられるような小さな乗り物はひ
うだろう。名前はいくらでも「スピード」は
最高速度が五十キロ。みんな同じ道路を走

るとあぶないから、お年寄り専用「らくらく
道路」をつくらせて信号も大きくする。「らく
らく号免許証」も必要だ。走れる時間帯も決
めておけば、事故も増えないし、危険じゃない
と思う。

それに、いい大人とばあちゃんが乗ちん
だど、ほくもうれしい。年をとってたら坂を
歩くのも、重い荷物を持つのも、大変だから
安全に乗れることかたきする車や、安心ルを走
れる道路が必要だ。ほくは思う。